

数え方は生み出せる!? 「筆者の考えをもとに自分の考えをスライドにまとめて上級生に伝えよう！」

発行
令和4年1月
中部教育事務所



授業者 小幡美央子教諭 (南国市立国府小学校)

教材 第4学年 数え方を生み出そう (東京書籍4年下)

単元計画 (全11時間)

- 第1次 1時 学習課題を確かめ、単元の見通しを立てる。
- 第2次 2時 「はじめ」「中」「おわり」の構成であることをおさえ、筆者の考えをつかむ。
- 3時 一つ目の事例と筆者の考えがどのような関係になっているのかを捉える。
- 4時 日本語における助数詞の役割について確認し、筆者の考えを捉える。
- 5時 二つ目の事例と、筆写の考えがどのような関係になっているのか捉え、便利さやよさについて、自分の考えをまとめる。
- 6時 今までの事例をもとに、筆者が読み手に伝えたいことについてまとめる。

- 7時 これまで考えてきた「数え方を生み出す」ことに対する考えを検証するために、ものの特徴を捉え、新しい数え方を考える。
※毎時間自分の考えをスライドにまとめていく。
- 第3次 本時 8時 筆者の考えをもとに、自分の考えをまとめ、交流する。
- 9時 これまでの学習を振り返り、筆者の主張や自分の考え、調べたこと、数え方を生み出した体験などをもとにスライドを仕上げます。
- 10時 スライドにまとめた自分の考えを上級生に発表する。
- 11時 単元を振り返り、付いた力を確認する。

本時で達成したい目標

◇筆者の考えをもとに自分の考えをスライドにまとめ、上級生に伝えるために、筆者飯田さんの文章を読んで理解したことについて、自分の思いや考えをもつことができる。

本時における深い学びとは

◇筆者飯田さんの文章を読んで理解したことを伝えるためにこれまでの自分の体験や既習の内容と結び付けながら自分の考えをまとめ、伝えようとする姿。

授業の概要 重点指導事項 C 読むこと オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

本単元では「数え方は生み出せる!? 筆者の考えをもとに自分の考えをスライドにまとめて上級生に伝えよう」という言語活動を設定した。第2次では、一人一台端末のスライド機能を活用し、毎時間ごとに筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、蓄積していく。そうすることで、始めにもっていた自分の考えがどのように変容していったのか児童が自覚できるようにした。

本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1 本時の課題をつかむ。 前時に生み出した数え方を紹介する。 11.12 段落を音読し、筆者の考えを確認する。	・単元のゴールを全員で確認し、ゴールに近づくための本時であることを全員でおさえ、これまで受け継がれてきた言い方を使っていくこと、言葉のじゅうなんさんにも目を向けることの両方大事という、11 段落の筆者の考えを確認する。
2 11 段落の筆者の考えに対して本文の事例やこれまでの体験から自分の考えをまとめる。 筆者の考えに対して、納得かどうか自分の考えをまとめる。 友だちと考えを交流する。	・これまで飯田さんの文章を読んできたことや、自分で数え方を生み出した体験をもとに、筆者の考えに対して納得したかどうかをノートに書かせる。 ・友だちの意見を聞き、納得する部分があれば、意見を変えても良いことを伝えておく。
3 筆者や友だちとの対話から再考し、自分の考えをスライドに残す。	・今まで残してきたスライドも参考にすることができるよう声をかける。 ・筆者のどんな考えと結び付けて考えたのか、自分のどんな体験と結び付けて考えたのかを明確にできるようにする。
4 学習を振り返る。	・今日の学習をもとに、思ったことや考えたことを書くことができるよう、振り返りのポイントを示す。

★講座に参加した先生の声

指導案を作っていくことから学べるので、とても勉強になりました。また他校の先生から様々な意見を出していただくことも効果的だと思います。ロイロノートの使い方、叙述をもとに発言するなど、たくさん学びのあった研修でした。

授業のポイント～授業づくり講座2セット目より～

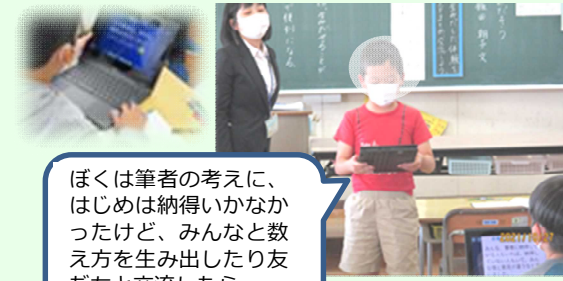
①付けたい力を明確にした学習過程

教材研究会より

9月の教材研究会において本単元の指導について3つのことが提案された。

- 1. 付けたい力と1単位時間とのつながり**
 - ・単元の始めと終わりで自分の考えがどのように変わったのか、変容を自覚できるように、毎時間自分の考えを残していくことが大切ではないか。
- 2. 単位時間どうしのつながり (右図参照)**
 - ・新しい数の数え方を考えさせることの必要性について。あとの時間でどのように取り扱うのか、何のためにこの活動に取り組むのか、意図を持って活動させることが必要ではないか。→数え方を生み出す体験を本時の前に設定することで、児童が意図を持って自分の考えの形成に生かせる学習過程になるよう修正した。
- 3. 本時で付けたい力と学習活動とのかわり**
 - ・筆者の主張を二つに分けて納得かどうかを考えさせることが本時での付けたい力をつけるために適切かどうか。筆者の主張を部分的に捉えさせるのではなく、こういう主張だということをもとに捉えさせようとして、納得かどうかを考えさせることが大切ではないか。

以上のことを踏まえながら、単元の計画を見直し、加筆・修正を行って本単元に臨んだ。



ぼくは筆者の考えに、はじめは納得いかなかったけど、みんなと数え方を生み出した友だちと交流したら…。

②本時で働く見方・考え方とは

本時で児童が見方・考え方を働かせるために重要な鍵となるのは、「書かれている文章をどんな視点で捉えるか」ということである。今回でいうと、見方・考え方を働かせている児童の姿とは、「筆者の考えに納得かどうか」という視点でもって、納得した理由と根拠となる叙述を結び付けながら自分の考えを形成していく姿である。例えば、筆者飯田さんの「新しいものを生み出せるという言葉のじゅうなんさんにも目を向けることが大切」という文章と「納得」という言葉を結び付けて、今まで読んできた飯田さんの挙げている事例や自分のこれまでの経験、友だちとの交流から納得した理由を考えている姿も見方・考え方を働かせている姿と言える。

③体験をもとに考えの形成につなげる

本時は、上級生に飯田さんの文章を読んで自分が考えたことをスライドで伝えるために、筆者の考えを理解したうえで納得かどうか、理由をつけながら友だちと交流し、それらを生かして自分の考えをまとめることに取り組んだ。児童は、11 段落に書かれている筆者の考えについて、これまで数え方を生み出してきた体験や叙述の内容に基づいて、考えをまとめることを目指した。それぞれの児童がスライドにローマ字入力、あるいは文字入力等自分に合った方法で自分の考えをまとめていったが、全体交流で筆者の考えに納得した理由として「(新しく数え方を生み出すと) それがどのようなものなのかわしく分かるし、物を見た時に思うことが多くなり考える力が働くから。」という、数え方を生み出す立場に立った自分の経験を生かし、数えるものの特徴に着目して考えた経験と結び付けた意見も出された。

④国府小版「振り返りの書き方」の掲示

深い学びを生み出す重要な視点の一つは「学習の成果と自己のかかわりを振り返る」ということである。振り返りを書くことは、学習の仕方、学び方が適切かどうかを評価し、改善していくことにもつながると言える。国府小学校では、授業づくり講座や各種研修から得た、振り返りのポイントをもとに、「振り返りの書き方」を学校の児童の実態や教師の授業改善を行うための視点に沿って整理し、国府小学校版として作成した。(右図参照) 4つの項目が設定されており、授業内容について、どのような言葉で振り返るのか具体例も示されている。単元で育成を目指す資質・能力がより明確になり、児童自身が自己の学びをメタ認知できるだけでなく、教師にとって児童がどのような見方・考え方を働かせてきたかをつかむためにも有効な取組である。

教材研究会の指導案より

○筆者の主張に対して、思ったことを伝えよう。

○これまで受け継がれてきた言い方を正しく使っていくことは、もちろん大切」と「新しいものを生み出す」という言葉を「新しいもの」として捉えることが大切」という文章と「納得」という言葉を結び付けて、今まで読んできた飯田さんの挙げている事例や自分のこれまでの経験、友だちとの交流から納得した理由を考えている姿も見方・考え方を働かせている姿と言える。

授業研究会の指導案より

○もの特徴を捉え、新しい数の数え方を考え、紹介スライドを作成する。

○筆者の考えをもとに、自分の考えをまとめ、交流する。

国府小版「振り返りの書き方」

★分かったこと

…が分かりました。
(なぜ分かったのかわしく)
…を知ることができました。
…と気づきました。

★今日の学びのつながり

…に使えると思います。
…につながっていると思います。
この学習は、○○に生かせると思います。
○年のときに習った～を使ったら分かりました。

★自分の変化・成長

…したことで考えが変わりました。
…が分かるようになりました。
…する力が強くなりました。